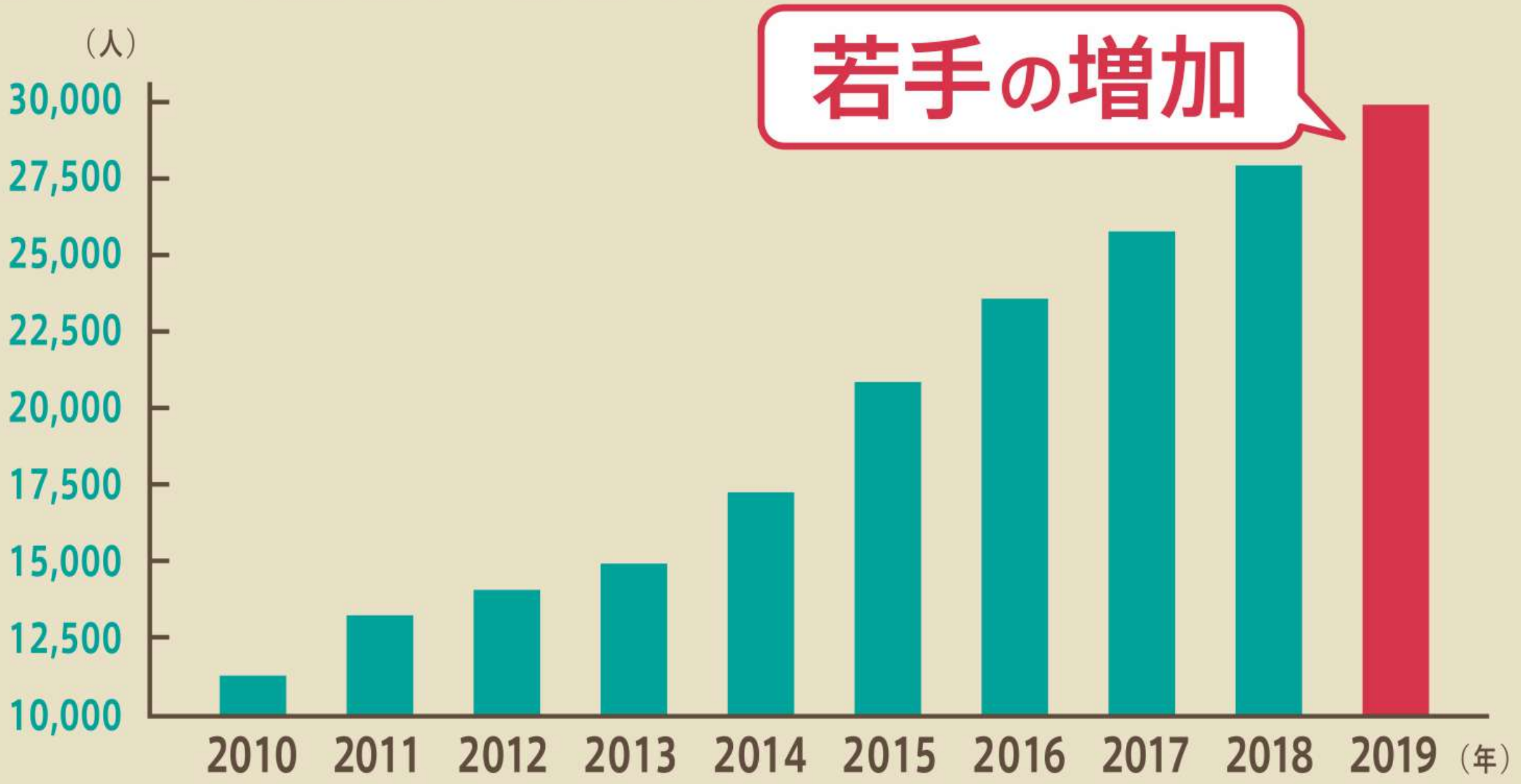
Fant

ハンター×農家×飲食店を
つなぐプラットフォーム

令和５年度の鳥獣被害額
16,400,000,000円

（表 1）10代～30代の狩猟免許発行数の推移



（出典：環境省）

株式会社 Fant　代表取締役

高野 沙月

第一種銃猟免許
猟銃所持許可

【経歴】

1990 北海道音更町生まれ
2013 明星大学造形芸術学部 卒業
2013 株式会社ティラノ入社
2016 狩猟免許・猟銃所持許可取得
2016 北海道上士幌町へJターン
2019 株式会社 Fant 設立

ハンター

狩猟免許があっても活躍の機会がない

農家

駆除を頼める
ハンターがいない

飲食店

ジビエ食材の仕入れは不安定

Fant | ソリューション

Fant | ハンターマッチングシステム

ここで捕獲してほしい！

自治体職員

農業従事者

①駆除依頼

ハンター

②駆除活動

Fant | ハンターマッチングシステム

ここで捕獲してほしい！

自治体職員

農業従事者

①駆除依頼

ハンター

②駆除活動

③搬入

食肉処理施設

④飲食店とのマッチング・販売

Fant｜利用方法

「駆除したい鳥獣」を選択

Fant | 利用方法

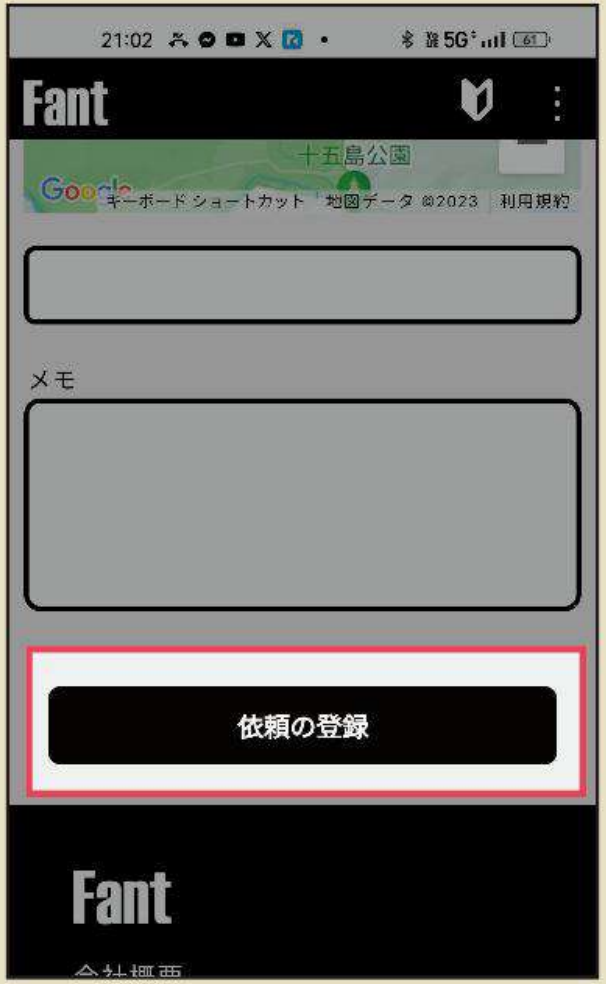
「駆除したい鳥獣」を選択

「駆除をしてほしい場所」を設定

Fant｜利用方法

「駆除したい鳥獣」を選択

「駆除をしてほしい場所」を設定



「依頼の登録」で完了

Fant | メリット

ハンター

ハンターは罠の設置や駆除の見回りが必要な場所が可視化され、
経験が浅いハンターでも効率的な駆除が可能となる。

農業従事者

駆除をして欲しい場所をハンターにリクエストすることができ、
ハンターと協力しながら自分の農作物を守る手段として有効。

自治体職員

これまで電話等のアナログ手段で行っていた業務が削減される。
町の鳥獣被害状況をデータ化できる。

ハンター　農業従事者

駆除が必要な場所は私有地である場合が多いため、
入ってはいけない場所にハンターが立ち入って起こるトラブルを防ぐ。

Fant | メリット

ハンター

ハンターは罠の設置や駆除の見回りが必要な場所が可視化され、
経験が浅いハンターでも効率的な駆除が可能となる。

農業従事者

駆除をして欲しい場所をハンターにリクエストすることができ、
ハンターと協力しながら自分の農作物を守る手段として有効。

自治体職員

これまで電話等のアナログ手段で行っていた業務が削減される。
町の鳥獣被害状況をデータ化できる。

ハンター　農業従事者

駆除が必要な場所は私有地である場合が多いため、
入ってはいけない場所にハンターが立ち入って起こるトラブルを防ぐ。

Fant | メリット

ハンター

ハンターは罠の設置や駆除の見回りが必要な場所が可視化され、
経験が浅いハンターでも効率的な駆除が可能となる。

農業従事者

駆除をして欲しい場所をハンターにリクエストすることができ、
ハンターと協力しながら自分の農作物を守る手段として有効。

自治体職員

これまで電話等のアナログ手段で行っていた業務が削減される。
町の鳥獣被害状況をデータ化できる。

ハンター　農業従事者

駆除が必要な場所は私有地である場合が多いため、
入ってはいけない場所にハンターが立ち入って起こるトラブルを防ぐ。

Fant | メリット

ハンター

ハンターは罠の設置や駆除の見回りが必要な場所が可視化され、
経験が浅いハンターでも効率的な駆除が可能となる。

農業従事者

駆除をして欲しい場所をハンターにリクエストすることができ、
ハンターと協力しながら自分の農作物を守る手段として有効。

自治体職員

これまで電話等のアナログ手段で行っていた業務が削減される。
町の鳥獣被害状況をデータ化できる。

ハンター　農業従事者

駆除が必要な場所は私有地である場合が多いため、
入ってはいけない場所にハンターが立ち入って起こるトラブルを防ぐ。

Fant | 料金形態

Fant | 料金形態

自治体

システム利用料

Fant

Fant | 札幌市との協業

シカ食害アプリで通報

エゾシカの食害が深刻化する札幌市で今秋、シカを見つけた農家がスマートフォンのアプリを活用して、ハンターに出動を要請するシステムの実証実験が行われる。駆除したシカの肉は「ジビエ」として飲食店に卸し、利益は市内の緑化事業に充てる仕組みだ。

出没地点報告▼ハンター出動

札幌市、今秋実験

水稲や果樹 被害44億円

21年度 上川、日高にも拡大

道内では、エゾシカによる農林業の被害額が2021年度に44億8000万円となり、2年連続で増加している。牧草が4割を占める一方、水稲や果樹など単価が比較的高い農作物にも被害が出ている。

道野生動物対策課によると、被害は酪農が盛んな東部地域（釧路やオホーツクなど）で目立つが、温暖化で積雪が少なくなった影響で、シカの生息域は稲作や畑作も盛んな西部地域（上川や日高など）にも広がる。21年度の西部地域の被害額は15億9000万円で5年連続で増えた。

道は適正な個体数管理のため、エリアごとに捕獲目標を設定。各地では国の交付金を活用した電気柵の設置、食用だけでなくペットフードや皮革製品への活用といった対策が進められる。

■駆除 年々増加

支部によると、駆除数は年間数十頭のペースだったが、2021年度は約100頭、22年度は約140頭に増加した。

スタートアップ（新興企業）の「Fant（ファント）」（上士幌町）が開発中のアプリは、シカが現れた場所を画面上の地図で詳細に指定し、通知を受けたハンターが駆けつける。実証実験は9月から約1か月間、果樹園も多くある南区で実施。同支部のハンター30人近くがボランティアで協力し、市が費用の一部を補助する。

札幌市南区の農地に出没するシカ（北海道猟友会札幌支部提供）

■処理肉 飲食店へ

駆除したシカはこれまで、農家が自ら処理するケースが多かった。ただ、解体作業は労力を要し、廃棄処理に費用もかかる。こうした負担を軽減するため、同支部がシカを市内の食肉処理施設に持ち込み、精肉処理した上でファントが希望する飲食店に卸すという。

ファントは飲食店の注文を受けたハンターが野生鳥獣を捕り、食肉処理施設に納入した肉を飲食店に届けるアプリを開発し、昨年から運用している。協力ハンターは累計約1700人。登録する飲食店は道内外の約100店舗に上り、このノウハウを今回の実験にも生かす。

同支部の奥山英博支部長（38）は「農家とハンター、地域とのコミュニケーションを大切にしながら課題解決につなげたい」と話す。ファントの高野沙月代表（33）は「若手ハンターが活躍できる場にもなるはず。他地域にも普及させたい」と意気込んでいる。

2023年6月13日 読売新聞北海道版

新聞　第3種郵便物認可

農家が要請→ハンター出動→食肉処理し料理店へ

シカ駆除・利用 アプリで

上士幌の企業 札幌・南区で実験

スタートアップ（新興企業）の「Fant（ファント）」（十勝管内上士幌町）は9月から、エゾシカの食害被害に悩む農家がスマートフォンのアプリを使い、ハンターに駆除要請する仕組みの実証実験を札幌市と行う。ファントは、ハンターが狩猟した野生鳥獣をジビエ（野生鳥獣肉）として料理店に販売する事業を行っており、駆除したエゾシカはジビエとして料理店に卸す。

実証実験は、エゾシカの食害被害が増えている札幌市南区で1カ月間実施する。実験費用の一部は札幌市が補助する。ファントは数百万円かけ、農家とハンターが登録するアプリを開発。農家が駆除してほしい場所をアプリ上の地図に登録すると、アプリを見たハンターが駆けつけて駆除する。ハンターは駆除した場所などをアプリに登録してシカの出没場所などの情報を可視化するため、「若いハンターが狩猟のノウハウを学べるメリットがある」（高野沙月代表）という。

エゾシカはハンターが南区内の食肉処理施設に持ち込み、ファントが無償で引き取って精肉処理し、注文を受けた料理店にジビエとして発送する。高野代表は「鳥獣被害に悩む地域は道内に多く、実験の成果を各地に展開したい」と語る。同社はこれまでエゾシカのジビエを1㌔あたり約4千円で販売しているという。

北海道猟友会札幌支部によると、南区では約10年前からエゾシカが増え始め、4年前からリンゴの木などの樹皮をエゾシカが食べる被害が目立っているという。現在は、地元の農協の要請で約30人のハンターがボランティアで出動し、昨年は140頭を駆除。エゾシカは食肉としては流通せず、農家が自家消費などしているが、ハンターや農家らが解体する労力も大きいという。

同社は料理店とハンターをオンラインでつなぎ、料理店がジビエの注文を出してハンターが野生鳥獣を狩猟し料理店に発送する仕組みを整え、昨年秋から展開している。（土田修二）

2023年5月17日 北海道新聞

Fant | 登録者数

ハンター

約1,800名

飲食店

約300店舗

Fant｜飲食店の導入事例（一例）

Etape

所在地
東京都墨田区東駒形 2 丁目 21-6

メニュー
蝦夷鹿フィレのロースト

natuRe tokyo

所在地
東京都新宿区霞ヶ丘町５－１

メニュー
エゾシカの薪焼き

きょうど料理亭杉ノ目

所在地
北海道札幌市中央区南５条西５丁目

メニュー
ヒグマとセリの鍋

有害鳥獣駆除のDX化
実証実験に
ご協力いただける自治体様